

【調査の目的】

○義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

○さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【調査の概要】

○実施校数・実施児童生徒数

小学校(6校)・6年生:216人

中学校(2校)・3年生:242人

○学力に関する調査

○学習や生活の状況・学校の取組に関する調査、

国語・算数／数学・英語(中のみ) 児童／生徒アンケート

【調査結果の取扱い】

○本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないよう各教科別に各領域の正答率をレーダーチャートで記載しています。

○調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

学力調査の検証にかかる東員町の教育努力目標

【確かな学力】

○小学校

・学んだこと(基礎基本)を生かしながら、仲間と共に新たな課題を乗り越える力を育みます。

・対話力や活用力を生かしながら、課題を克服できる力を育みます。

○中学校:・目標に向かって、計画的・継続的に学習できる力を育みます。

【豊かな心】

○小学校:

・仲間と共に学び合うことに喜び感じられる心を育みます。

・困っている子に気づき、相手の立場に立ち、考えられる心を育みます。

○中学校:

・自分の将来や生き方について考えられる力を育みます。

・社会の発展に貢献しようとする心や力を育みます。

【健やかな体】

○小学校:

・規則正しい生活習慣と、進んで運動したり外遊びをしたりする習慣を身につけます。

○中学校:

・規則正しい生活習慣を確立し、体力をつけようとする力を育みます。

☆レーダーチャート図の見方:各教科で学習指導要領に示されている領域の正答率をグラフ化したものです。それぞれの領域の正答率が高いほど、グラフの形はバランス良く大きくなる傾向にあります。

○小学校

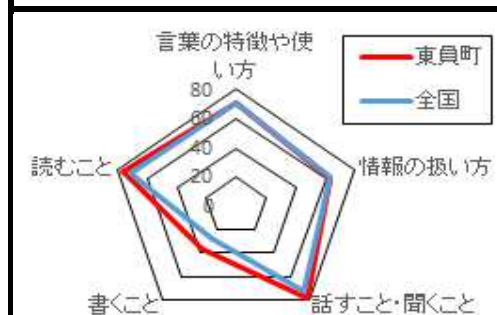
【全体的な傾向と課題について】

『情報の扱い』以外が、全国値を上回る正答率である。無回答率が全国値を下回っている。文中から言葉を整理してとらえることはできているが、語句どうしを関連付けて表現することと漢字(同音異義語)が課題である。

★指導のポイント★

「話し合い活動」自らの立場や意図を明確にして、相手と自分の考えを比べながら聞き、討論する。「書く活動」条件に合わせて書く。文章や資料から複数の情報を関連付けて読み取る。

国語



○小学校

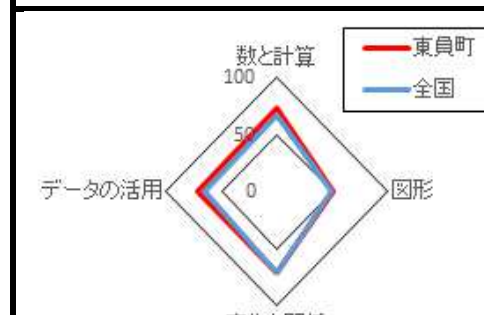
【全体的な傾向と課題について】

すべての項目が、全国値を上回る正答率である。選択肢を選んだ理由を、言葉や数を用いて記述することに課題がある。

★指導のポイント★

「算数用語の定義に基づく説明」定義に基づかない用語や数で記述していることから、定義に基づく説明を重点的に授業で行う。「問題文の読み方に注目した指導」問題文を正しくとらえず解答している。国語と同様に、複数の情報を関連付けて、条件に合った読み取りができる指導を行う。

算数



○中学校

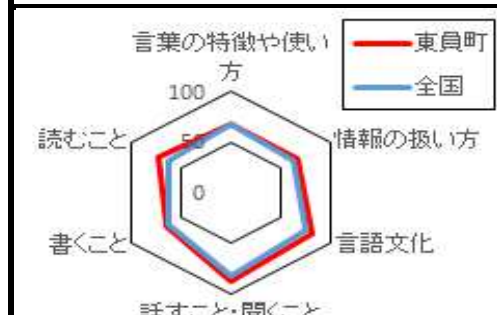
【全体的な傾向と課題について】

全項目が、全国値を上回る正答率である。無回答率が低く、記述問題では全国が20%に対して東員町は9.1%と難しい問題でも挑戦しようとする意欲が高い。漢字の書き取りが全国と同様に正答率が低く課題である。

★指導のポイント★

条件に基づく解答ができており、読解力の向上指導の結果だととらえている。今後も、読解力とリーディングスキルに基づいた指導を継続していく。漢字の書き取りは、読みと意味を関連して理解・説明する機会を増やす。

国語



○中学校

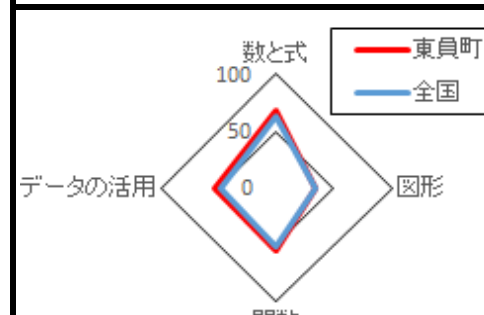
【全体的な傾向と課題について】

全項目が、全国値を上回る正答率である。目的に応じた式変形や成立理由を問う問題では、全国より約8%高い正答率である。証明問題では、条件を満たさない解答を選ぶ割合が高く、課題である。

★指導のポイント★

数学用語や定義に基づく説明ができており一方で、複数条件を満たす問では課題があることから、自らの考えを客観的に読みなおし、表現や説明する機会を増やす。

数学



○中学校

【全体的な傾向と課題について】

全項目が、全国値を上回る正答率である。無回答率が低い。『英語の勉強は好きか』では全国値を20%上回る肯定回答であった。これは、小学校からの英語専科教員配置と小中英語教育の連携の成果である。

★指導のポイント★

小学校からの外国語教育の成果が表れているため、今後も、小中で連携する授業を推進する。

英語

